※令和４年度以降入学生用

学校番号	1009

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	(学)文学を切る	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「精選　文学国語」（三省堂）						
副教材等	「三訂版　入試頻出漢字＋現代文重要語彙　ＴＯＰ２５００」（いいずな書店） 「イラストとネットワーキングで覚える　現代文単語　げんたん　改訂版」（いいずな書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、課題に対して自ら考え、周りの人と協働で考え、発言していくための活動を行います。
多くの文章を通して、「読む能力」と「書く能力」をしっかりと身につけ、それらを活用して著者の心情を理解し、自身の思いを他者に上手に伝える力を身につけてください。
家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まで丁寧に取組みましょう。
授業中のノートについては、板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。授業のポイントや自身で気づいたこと、クラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。

２　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、的確に理解し効果的に表現する資質・ 能力を次のとおり育むことをめざす。

（１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

（２）深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

（３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な漢字や語句を身につけ、想像や心情を豊かにする。	他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ、他者の意見に耳を傾け、協働することができる。	言葉を通じて、積極的に他者と関わったり思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値や言語文化を学ぶことができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元の学習内容</th><th rowspan="2">単元の評価規準</th><th colspan="3">評価方法</th></tr>
<tr><th>知(a)</th><th>思(b)</th><th>主(c)</th></tr>
<tr><td rowspan="9">1学期</td><td>物語の力について考える。
［教材］
夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について</td><td rowspan="2">a：言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。
人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。
b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。
作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
c：進んで言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の種類を踏まえて内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。</td><td rowspan="2">ワークシート
定期考査
小テスト</td><td rowspan="2">ワークシート
定期考査</td><td rowspan="2">ワークシート
ノート
振り返りシート</td></tr>
<tr><td>小説の寓意について考える。
［教材］
少年という名前のメカ</td></tr>
<tr><td>会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。
［教材］
山月記</td><td>a：文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。
文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。
b[書]：作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりしている。
c：進んで文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について体系的に理解し、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫しようとしている。</td><td>ワークシート
定期考査
小テスト</td><td>ワークシート
定期考査
ノート</td><td>ワークシート
ノート
振り返りシート</td></tr>
<tr><td>会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。
［教材］
山月記</td><td>a：文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。
文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。
b[読]：語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、解釈している。
作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
c：進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して解釈しようとしている。</td><td>ワークシート
定期考査
小テスト</td><td>ワークシート
定期考査</td><td>ワークシート
ノート
振り返りシート</td></tr>
</table>

※令和４年度以降入学生用

2学期	非現実的な設定をもつ小説の魅力について考える。 ［教材］ 神様	a：言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 c：進んで言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ解釈の多様性について考察しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート ノート 振り返りシート
	翻案小説の魅力について考える。 ［教材］ ありときりぎりす	a：情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 b[書]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。 c:進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート ノート 振り返りシート
	小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する。 ［教材］ こころ	a：言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 b[読]：語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c：進んで、文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート ノート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

3学期	批評について理解を深める。 ［教材］ お砂糖とスパイスと爆発的な何か	a：言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 c：言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート ノート 振り返りシート

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　）時間

・書くこと　…　（　３０　）時間

・読むこと　…　（　１００　）時間